

ずいそう

教育再生と杭について

平見 殖



戦後生まれの総理大臣誕生に夢と希望を感じる国民の一人である。夏期休暇を利用してデンマーク、ノルウェーを散策して、ふと「教育再生」と言う言葉に深い関心を持ち続ける私にとって、最近の我が国の暗いニュースが嘘のように思える光景に遭遇しました。

それは、我々の所属する「もの造り」の基礎となる杭について深く考えさせられました。毎朝、職場で仕事の始まる前に必ず身体をリラックスさせるためのラジオ体操の事です。このラジオ体操の発祥地はデンマークであると以前からも聞かされてきました。

毎年デンマーク体操の関係者数名をホームステイしている縁で、オレロップ体育アカデミースクールと言う全寮制の奇宿舍に身を寄せ、滞在期間中にウフェ・ストランビュー校長、ヒデミネ・ナカムラ事務長、そして男女問わず生徒達と接してみると学校全体が夢を持ち、その夢が自分で実現できるよう指導者も生徒も一体となって取り組んでいる前向きな姿勢に感動と感銘を受けました。何故ならば「全てが挨拶で始まり挨拶で終わる」指導者並びに生徒達が目的に対する実現迄は、自由とかったつな行動力は言葉では表現できない程明るく、楽しく、実に生き生きとした校風でありました。

また、門限や施錠は一切なく、技術や成績の優劣等は評価の対象ではないのです。そして、朝・昼・夜と食事をするにも先生、生徒の区別なしに当番制で準備や片付けをてきぱきとこなしている所作等は実に頼もしく、そのお国柄かと思いました。国の支援の大きさを校長から聞き、物価が高くても（ちなみに消費税20%）、なる程とうなずける要素と心の通う人間性に素晴らしいと絶賛しました。又、今年も彼等の来日を今から楽しみにしているところです。

この体験を通して、日本の教育再生には大いに参考になると思いました。挨拶、全員参加のラジオ体操が基本である事から、我々が携わる基礎工事専門業者としても今一度、杭とは何か？杭の動きとは何か？と言う基本は同じではないかと考えさせられました。

人間にも基礎知識がなければ、又、体力的にも基礎体力が無ければ欠陥人間になってしまいます。

構造物においても、基礎杭又、基礎がしっかりしていなければなりません。構造物いや人命を預かる重要な仕事である事に自信と誇りと使命感を持って技術者、技能労働者、業界、会社と共に取り組み、生活する人々

に安心と安全を与えなければならないと痛切に感じています。

近年は、杭工法の技術革新又、工法の開発には各社とも競争を激化させていますが、現場で杭を築造する技術管理者、技能労働者に、杭とは何か、杭の動きとは何かをいかに理解させるべき指導者は、オレロップ体育アカデミースクールと同じで真剣に考えて夢を持ち、自分で実現できる業界にしていきたいものです。最近コスト削減ばかりが先走って、真のコスト削減とは何か積み残され競争社会ばかりが目立つ事を憂慮しています。構造物は我々人生の中では証明できませんが、阪神・淡路大震災を思い起こせば、今だに身震いします。人間、喉元過ぎればなんとやらで震災後11年たった今こそ昔の事のように思っははいけません。何故なら日本は地震国であり、自然の脅威と常日頃から向き合わなければいけないからです。

昔は、石の基礎、木の杭、コンクリート杭、鋼杭と一様に改良改善されて来ているわけであります。この変化の意義を精査して、現場は生きている、土は生き物である。大きな地球と戦っているから現場第一主義に技術の継承を杭に携さわる、いや構造物に携さわる全ての人に訴えていく役目があると共に、エンドユーザー迄にアピールしなければいけない事は言うまでもありません。そのための基礎知識、基礎技術、基礎能力を今一度見直して、技術者、技能労働者にプライドと誇りを持ち続けてもらえる業界にしたいと夢を持ち、自分で実現できる若手技術者、若手技能労働者を育成したいと思います。それには、人を愛し、現場（構造物）を愛し、夢と希望のある職場環境が望むところです。目標達成へ向けて、あくまでも基本を大切にしながら改善と改革する事が仕事なんだと思えば前進できると信じています。

厳しく困難な環境ではありますが、信念と行動を業界に訴えねばなりません。

現場第一主義に土をこよなく愛する者の一人として悔いの残る杭を作る事は絶対許されません。

「それは杭屋ではない」事を切に願って、これからもう大いに杭を語っていきたいと思います。